

Nバス及びおでかけなんじいの利用状況について

令和2年3月

南 城 市

1 令和元年 10 月再編

1.1 再編の概要

- 令和元年 10 月の公共交通の再編により、新たに市内バス（Nバス）の運行を開始、従来の路線バスは、南城市と市外を結ぶ幹線バスと位置付け、一部路線（37 番、39 番、41 番、339 番、40 番、309 番、36 番、50 番）の起終点を南城市役所に集約しました。
- Nバスの利用を促し、おでかけなんじいの混雑緩和を図るため、Nバスは市内均一運賃（市民は回数券あり）とし、おでかけなんじいについては、料金値上げ（ただし、75 歳以上は値下げ）を行いました。



図-1.再編後の路線バスの路線図

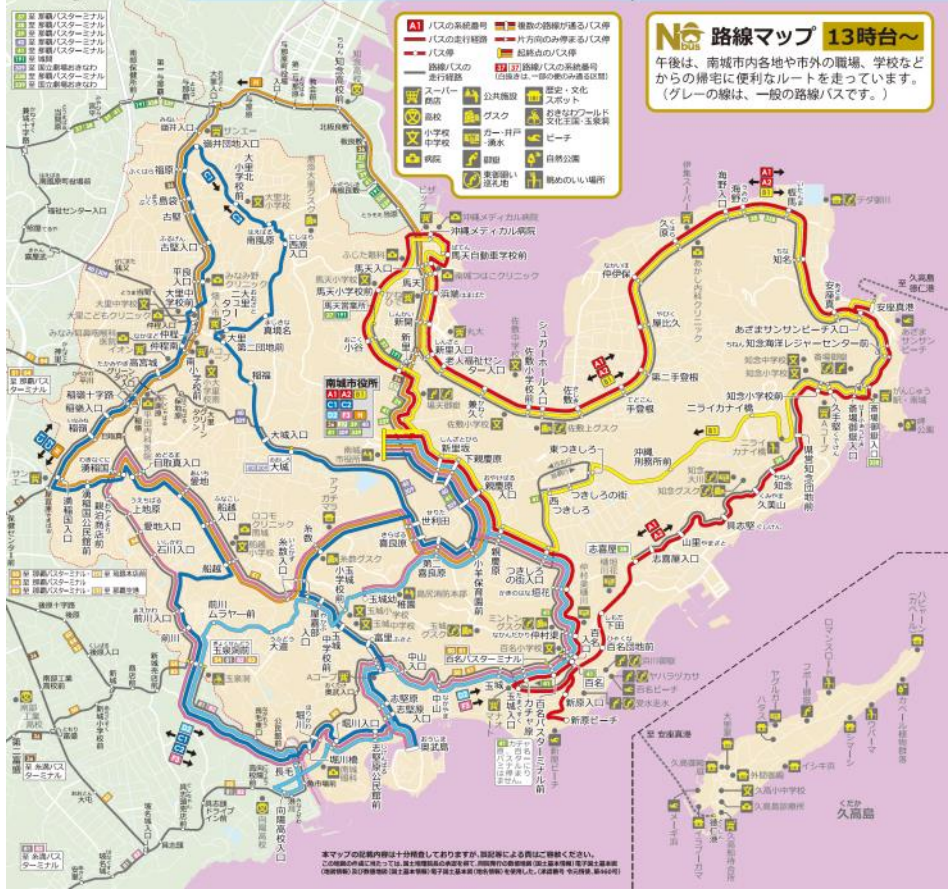


図-2.Nバスの路線図

表 1.Nバスの運賃

種別	区分	通常料金	回数券 1 枚当たりの販売額
市民	大人	300 円	160 円
	中高生	300 円	80 円
	小学生	150 円	80 円
	未就学児	無料	無料
観光客 (市外)	大人 (中高生含む)	300 円	—
	小人 (小学生)	150 円	—
	未就学児	無料	—

表 2.おでかけなんじいの運賃

種別	区分	現在		再編後	
		通常料金	回数券	通常料金	回数券
市民	大人	300 円	250 円	500 円	—
	小中高校生	300 円	250 円	500 円	—
	未就学児	無料	無料	無料	—
	75 歳以上	300 円	250 円	200 円	—
観光客 (市外)	大人	300 円	250 円	500 円	—
	小人	300 円	250 円	500 円	—
	未就学児	無料	無料	無料	—



図-3.公共交通再編記念式典の状況

1.2 無料期間

- 令和元年 10月1日（火）～22日（火・祝）の22日間、新たに運行を開始したNバスの利用を促すため、運賃を無料としました。
- 無料期間中は、多くの市民の方に利用していただきました。

市内線（Nバス）無料運行期間中にぜひお試しを!!

新しい南城市のバス路線の便利さを体感していただくため、令和元年10月1日（火）～22日（火・祝）は、市内線（Nバス）が、無料となります。是非、この機会にご利用ください。
※なお、幹線（路線）バスは、無料の対象外ですのでご注意ください。

市内線（Nバス）が停車するバス停には、ステッカーを張り付けています。

このステッカーが目印です♪



バス停



※Nバスは小型バスで運行いたします
一部中型バスでの運行もあります

図-4.公共交通だよりでの無料運行の案内



図-5.無料運行時の状況

2 Nバス・おでかけなんじいの利用状況

2.1 概況

- 再編前のおでかけなんじいは概ね1日当たり80人前後の方が利用していました。
- 再編後のNバス利用者は1日当たり約320～380人、お出かけなんじいは約60人となっており、合わせて約380～450人の方が利用しています。

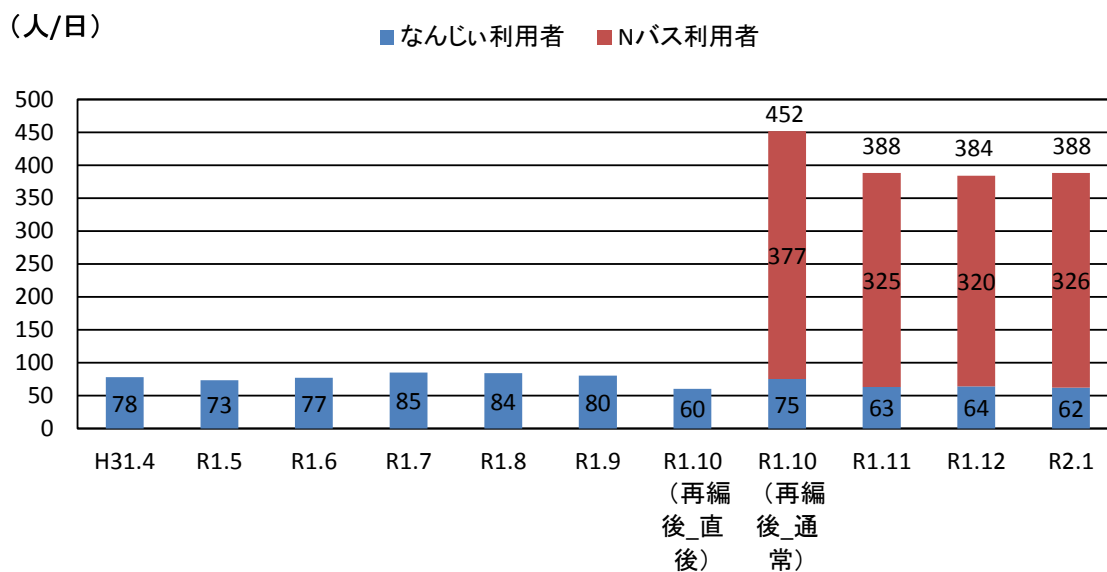


図-6.Nバス及びおでかけなんじいの利用状況の推移

2.2 Nバスの利用状況

(1)利用者数の推移

●Nバスは1日当たり300~400人前後の方が利用しています。

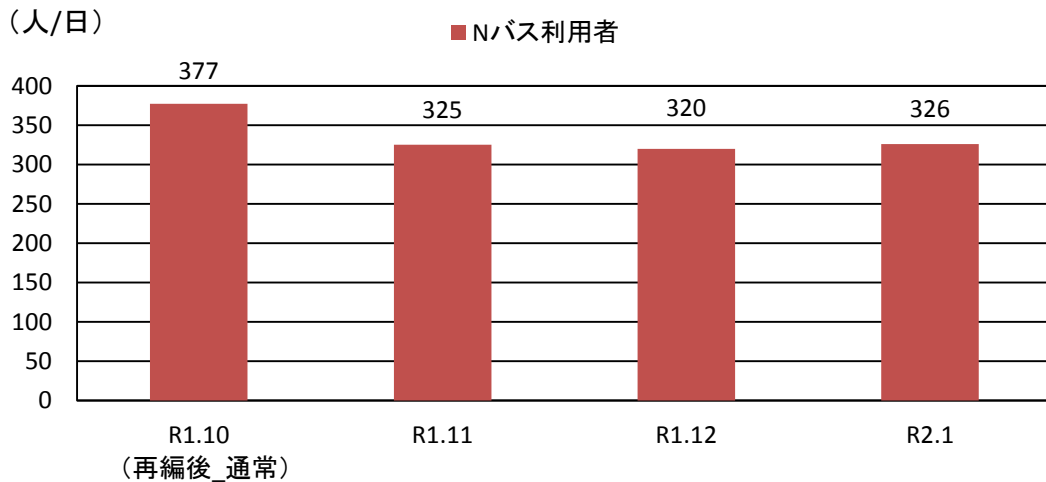


図-7.Nバスの利用者数の推移

(2)券種別利用者数の推移

- 券種別の利用者数は、回数券利用が最も多く、小学生と大人の回数券利用が多くなっています。
- 小学生の回数券利用は減少傾向にあります。大人の回数券利用は増加傾向にあり、12月以降は小学生よりも多くなっています。
- 下図に示した利用者に加え、未就学児の利用もあり、佐敷幼稚園では7人/日、玉城幼稚園では27人/日の園児の定期的な利用があります。

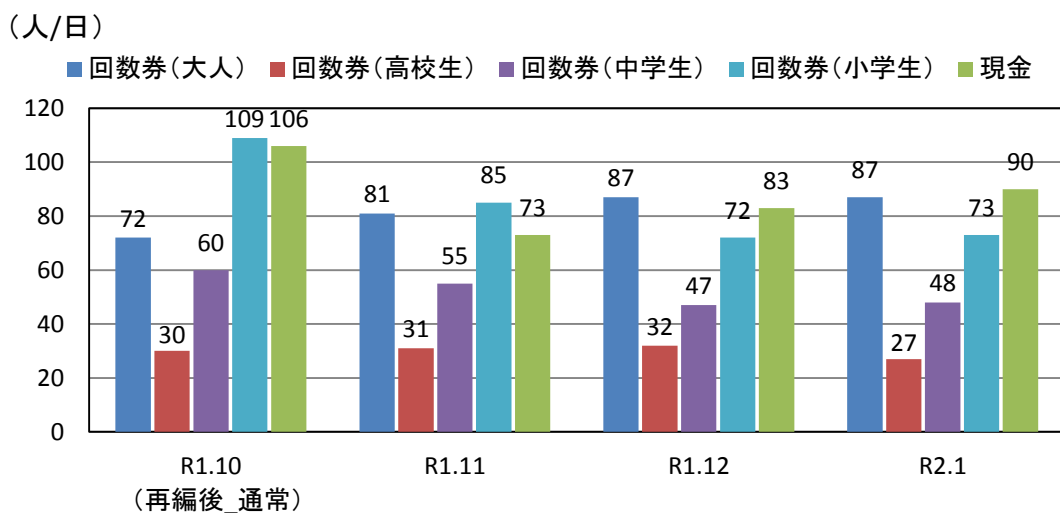


図-8.Nバスの券種別利用者数の推移

(3)曜日別利用者数の推移

- 曜日別の利用者数は、平日は 400 人前後、土曜日は 170～200 人、日祝日は 120～140 人が利用しています。
- 小中高校生の回数券利用が多いこともあり、土曜日と日祝日の利用者数は平日の半分以下と少なくなっています。

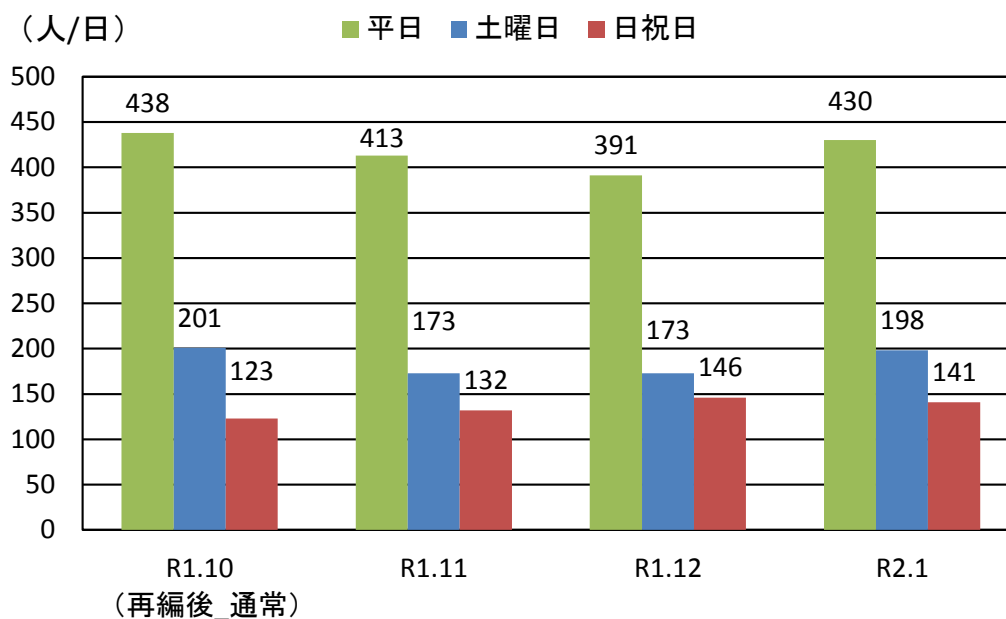


図-9.曜日別利用者数の推移

2.3 おでかけなんじいの運行・利用状況

(1)運行形態

- 再編によるおでかけなんじいの役割の見直しに伴い、運賃の改定、運行区域の見直しを行っています。
- また、土曜日の16時台で便数の減便、12月より運行車両の小型化を行っています。

表 1.再編前後の「おでかけなんじい」の運行形態

項目	再編前	内容
名称	おでかけなんじい	同左
デマンドバスの運行範囲	久高島を除く南城市全域及び 沖縄県立向陽高等学校 (八重瀬町字港川 150 番地)	久高島を除く南城市全域 沖縄県立向陽高等学校 -(八重瀬町字港川 150 番地)-
利用対象	南城市を訪れる観光客及び南城市民 (年齢制限なし)	同左
利用料金	一人一律、1回300円 (未就学児は無料) 12枚綴り3,000円の回数券を発行	75歳未満は一人一律、1回500円 75歳以上は一人一律、1回200円 (未就学児は無料)
運行形態	ドア to ドア方式の区域運行 (フルデマンド)	同左
運行曜日	平日・休日(土日祝)の毎日 ※12/31~1/3は除く	同左
運行時間帯・ 運行便数	●8~20時(8時台~19時台の1 時間ごとに運行) ●平日9時台~18時台、土曜日の 11~16時台は3台/時運行 ●その他の時間帯は2台/時運行	●8~20時(8時台~19時台の1 時間ごとに運行) ●平日9時台~18時台、土曜日の 11~15時台は3台/時運行 ●その他の時間帯は2台/時運行
運行車両台数	最大3台(10人乗り車両)	最大3台(12月より5人乗り車両)
利用方法	観光客は登録不要。南城市民は登録 制で、利用したい便の30分前まで に電話にて予約。ただし、8時台は 前日までの予約が必要。	同左
運営体制	運行業務及びオペレート業務は、地 方自治法に基づく随意契約で選定。	同左

表 2.再編後の「おでかけなんじい」の運行台数

曜日	時間帯											
	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時
平日	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2
土曜日	2	2	2	3	3	3	3	3	2	2	2	2
日祝日	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2



(2)運行便数

●運行便数は再編前と再編後のどちらも概ね 30 便/日ほどの運行となっています。

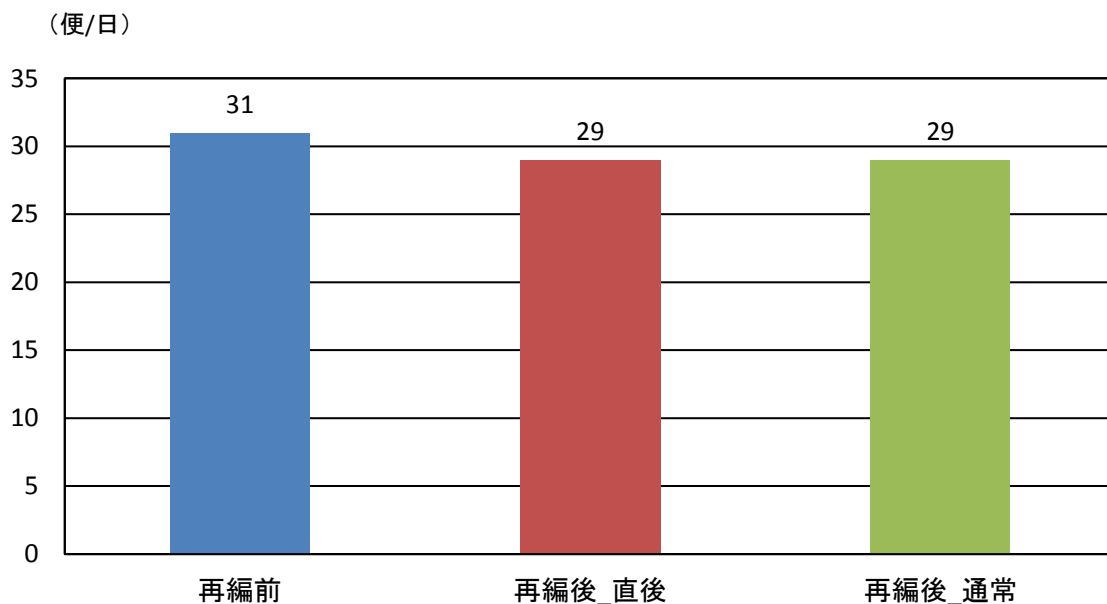
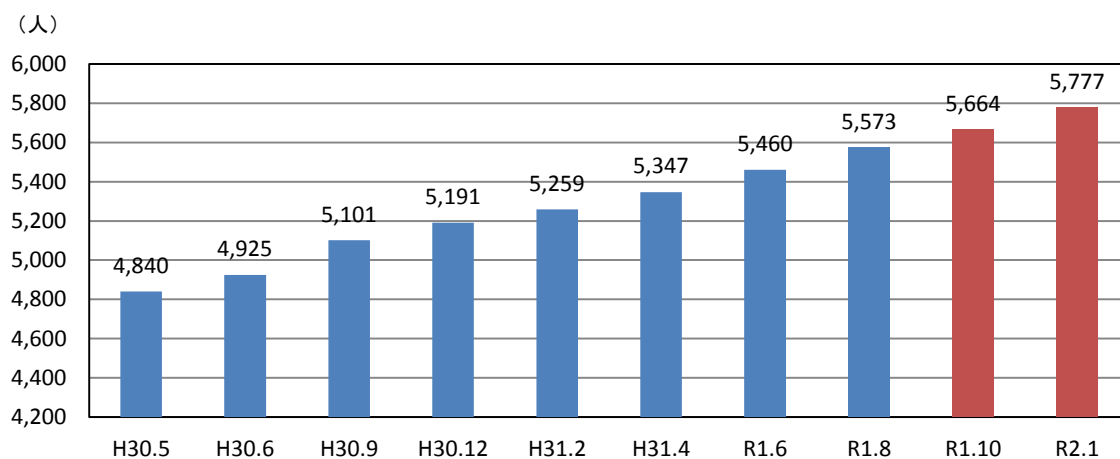


図-10.「おでかけなんじい」の運行便数の推移

(3)登録者数

●登録者数は平成 30 年 5 月が 4,840 人、平成 31 年 4 月が 5,347 人、再編後の令和 2 年 1 月が 5,777 人と、増加傾向で推移しています。



※登録者数は、一人で個人と団体に重複して登録されている方も含まれます。

図-11.「おでかけなんじい」の登録者数の推移

(4)利用者数

- 1日当たりの平均利用者数は、再編前は79.5人/日となっています。
- 再編後の平均利用者数は再編直後のNバスの無料運行期間で60.0人/日、Nバス無料運行期間終了後の通常期間で63.0人/日となっており、利用者数が16.5人/日（21%）減少しています。

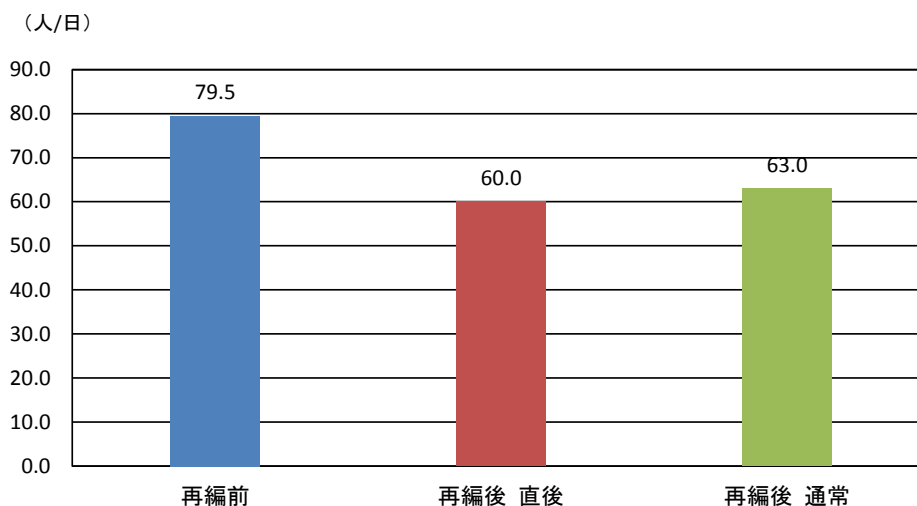


図-12.「おでかけなんじい」の利用者数の推移

(5)曜日別の利用状況

- 再編前後の利用状況を見てみると、平日は87.5人/日から71.3人/日へと16.2人/日減少、土曜日は70.9人/日から57.5人/日へと13.4人/日減少、日祝日は59.4人/日から36.9人/日へと22.5人/日減少しています。
- 日祝日での減少が多く、利用者数は平日の約半数となっています。

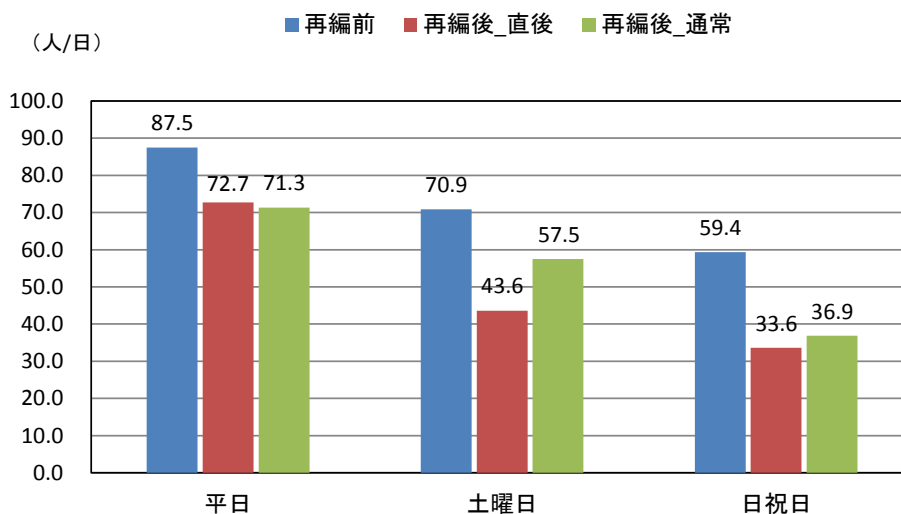


図-13.曜日別の「おでかけなんじい」の利用者数

(6)曜日別時間帯別の利用状況（再編後）

●土曜日、日祝日の8時台、18時台、19時台は平均利用者が3.0人/h以下と少なくなっています。

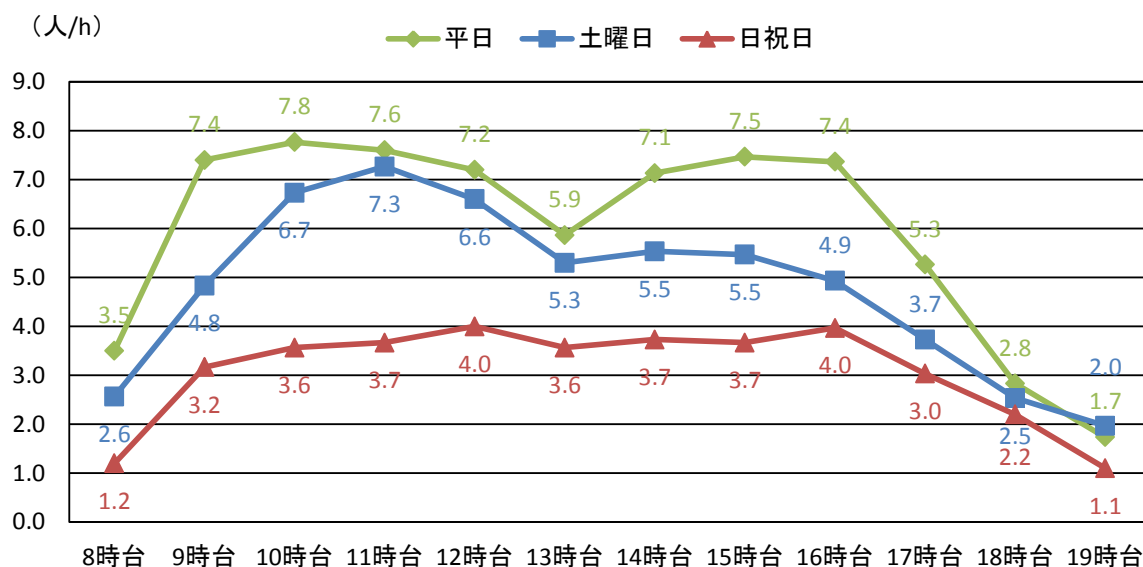


図-14.曜日別時間帯別の利用状況

(7)性別の構成

●再編後で比較すると、男性の割合が19%から23%へと4ポイント増加しています。

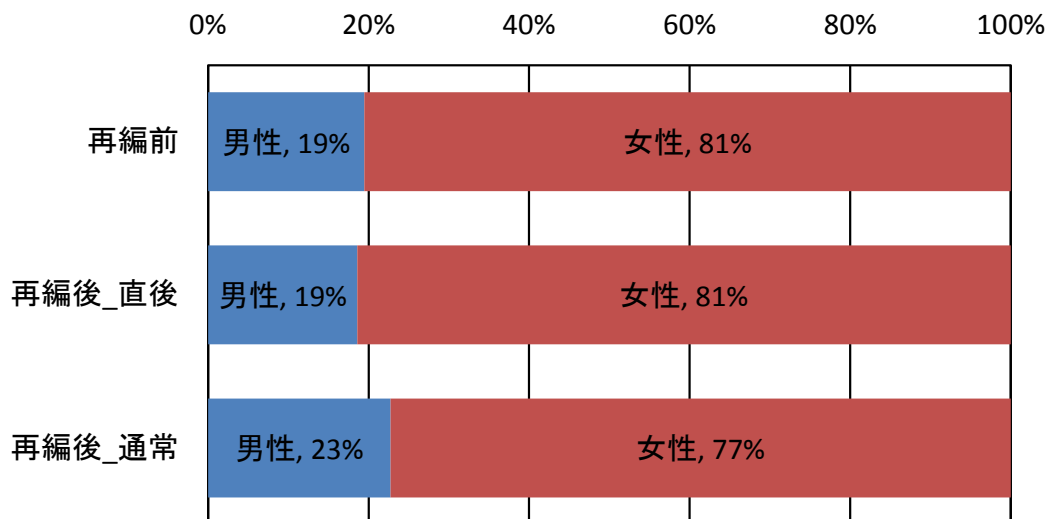


図-15.利用者の性別の推移

(8)年齢構成

- 再編後における利用者の年齢構成は、「80～84歳」が33%、「75～79歳」が30%、「85歳～」が12%と高齢者の利用が多く、75歳以上が全体の75%を占めています。
- 再編前後の75歳以上の利用者数は32人/日から45人/日へと13人/日（41%）増加しています。
- 一方、74歳以下の利用者数は40人/日から16人/日へと24人/日（60%）減少しており、「おでかけなんじい」からNバスにシフトしている状況がうかがえます。

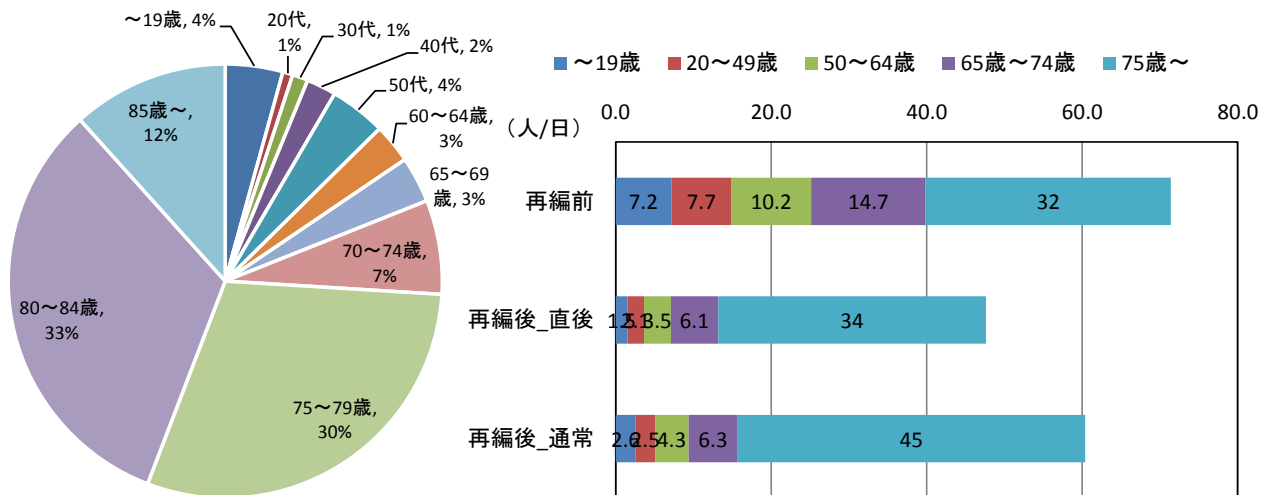


図-16.利用者の年代(再編後)

図-17.利用者の年代の推移

(9)市民と観光客

- 再編後の市民と観光客の構成比は、市民97%、観光客3%となっています。
- 観光客の利用は再編前の5.3人/日から、再編後は2.2人/日へと半減しています。

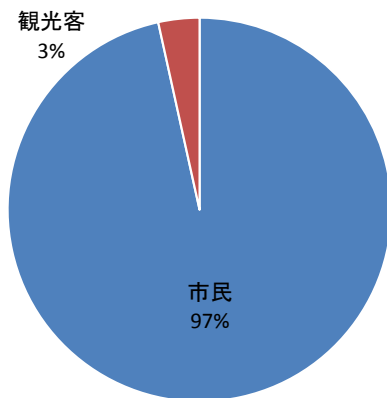


図-18.市民と観光客の構成比

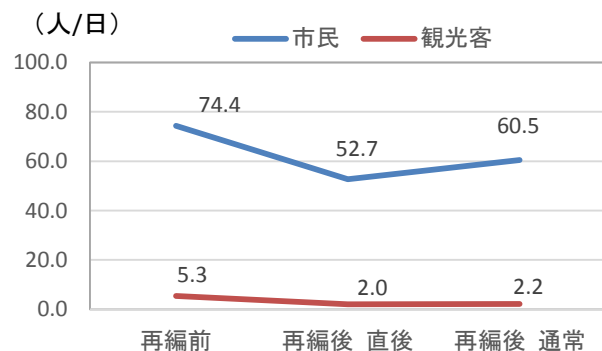


図-19.市民と観光客の利用者数の推移

2.4 再編後の利用状況のまとめ

- 再編により、「おでかけなんじい」の利用者数は17人/日減少したものの、新たに運行開始したNバスに320～380人利用しており、南城市内の公共交通利用者は大幅に増加しています。
- 特に74歳以下で、「おでかけなんじい」から「Nバス」への転換が顕著で、再編前後で74歳以下の「おでかけなんじい」の利用者数は6割減少しています。
- Nバスは、小中高生の回数券での利用が多く、登下校で多く利用されています。
- 日祝日で「おでかけなんじい」の利用者の減少が大きく、利用者数が平日の半数にとどまっています。

表 3.再編後の利用状況のまとめ

項目	内容
利用者数	<ul style="list-style-type: none"> ●Nバスを1日平均320～380人が利用 ●「おでかけなんじい」の利用者数は17人減少、利用者数は1日平均約60人
曜日別/時間帯別の利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ●Nバスは、回数券利用が多く、平日の利用者400人前後に対し、土曜日、日祝日の利用者数は平日の半分以下と少ない。 ●「おでかけなんじい」は、日祝日の利用者が大幅に減少、利用者数は平日の約半分の37人にとどまる。 ●土曜日、日祝日は8時台、18時台、19時台の利用者数が3.0人/h以下と少ない。
性別の構成	<ul style="list-style-type: none"> ●「おでかけなんじい」は再編後、男性の利用割合が4ポイント増加したものの、全体に占める割合は23%にすぎず、依然として女性の利用が非常に多い。
年齢構成	<ul style="list-style-type: none"> ●「おでかけなんじい」の74歳以下の利用は6割減少、一方、75歳以上は4割増加しており、その結果、75歳以上が利用者の75%を占めるようになった。
市民と観光客の利用	<ul style="list-style-type: none"> ●「おでかけなんじい」は観光客の利用が少なく、再編前の5.5人/日から再編後は2.2人/日へと半減している。

3 「おでかけなんじい」の見直し基準との適合状況

3.1 見直し基準との適合状況

- 令和2年1月時点で、予約の断り件数も含めた利用者数と、増減便、運行取り止め基準を照らし合わせてみると、2台から3台への増便の基準3.5人/台に達している時間帯はありません。
- 3台で運行している平日の13時台、土曜日の13～15時台は、3台から2台への減便の基準2.0人/台の基準をそれぞれ下回る1.95人/台、1.77人/台、1.84人/台、1.82人/台の利用となっております。平日の13時台はドライバーの交代時間のため、予約をあまり取らないようにしていることが原因と考えられます。土曜日13～15時台について、3月までの運行実績で基準を下回るようであれば、基準を下回っていない土曜日11時台、12時台も含め、土曜日11～15時台の2便への減便を検討します。
- 日祝日の利用者数は減少していますが、運行取り止めの基準0.5人/台を下回る時間帯はありません。

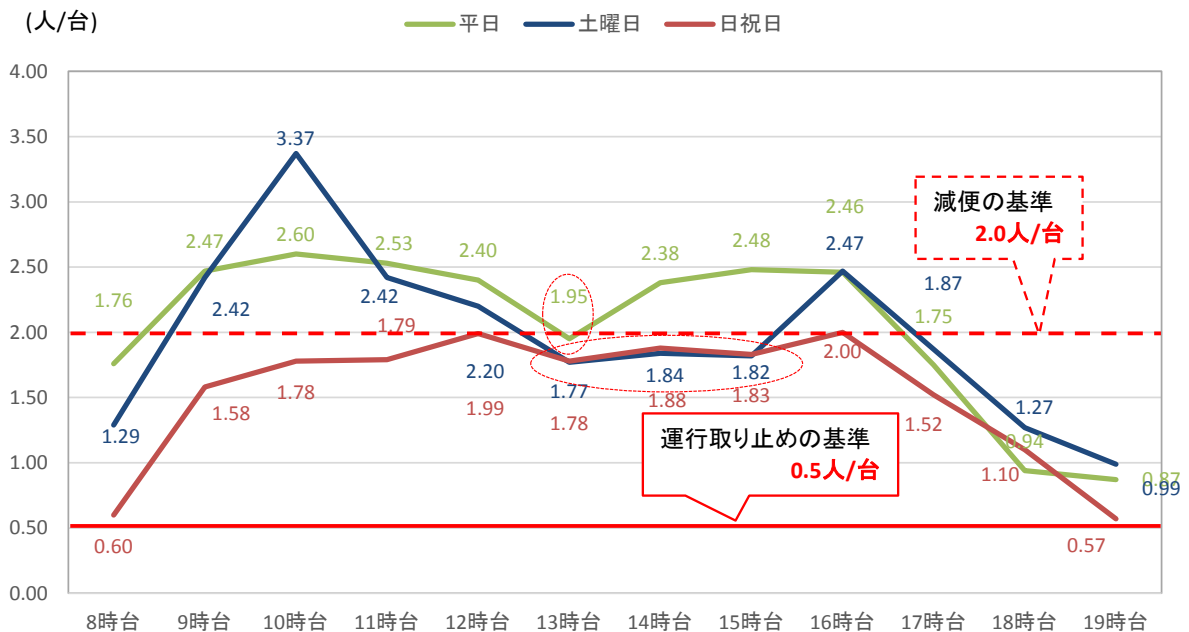


図-20.「おでかけなんじい」の予約の断りも含めた利用者数と増減便・運行取り止め基準との比較(R1.11～1)

表 4.増便・減便等に関する基準

項目		基準
減便	3台→2台	2.0人/台未満
運行取り止め		0.5人/台未満
増便	2台→3台	3.5人/台以上
	3台→4台	4.0人/台以上